

**木下空太郎(太田正雄)** 詩人、劇作家、医師。耽美派ながら合理的な独自の作品群、癩病の世界的権威でもあった。

きのしたもくたろう

内閣発足・・・1885 =

静岡県賀茂郡湯川村(伊東市)で、雑貨卸商の三男に生まれる。本名太田正雄。

**帝国憲法発布**1889 = 4歳 :

大本教・・・1892 = 7歳 : 東浦尋常小学校に入学し、

**日清戦争始**・1894 = 9歳 :

子規句歌革新1898 = 13歳 : 統合された伊東尋常高等小学校高等科3年を修了。上京し、独逸学協会中学校に入学。

津田左右吉に歴史を習い、{明星}などの詩を愛読、同級生と蒔荷版雑誌を出して諷められなどしながら、

**日比谷公園**・1903 = 18歳 : 卒業。ドイツ医学志向の第一高等学校第三部に入学するも、好まず、転科を希望して、教授に止められ、

**日露戦争終**・1905 = 20歳 :

満鉄発足・・・1906 = 21歳 : 卒業して、東京帝国大学医科に進み、皮膚科を専攻。\_長編小説「夕日の宮」を発表。

韓国反日暴動1907 = 22歳 : \*{明星}同人となり、文壇に登場し、新詩社の天草旅行に加わって詩的開眼を体験、

アヲヰ 創刊・1908 = 23歳 : 森鷗外の知遇を得、北原白秋・吉井勇・石井柏亭らと{パンの会}を興して耽美主義の台頭をもたらし、

伊藤博文暗殺1909 = 24歳 : \*{スバル}創刊に加わって森鷗外に認められる。創刊号に小説「荒布橋」を、第二号に戯曲「南蛮寺門前」をと

つぎつぎに掲載、同時に詩作も深まり、白秋・長田秀雄と{屋上庭園}を創刊、

大逆事件判決1911 = 26歳 : 卒業。衛生学教室に入り、ようやく医学になじむ。\_{スバル}に、戯曲「和泉屋染物店」を発表して、好評。

明治天皇没・1912 = 27歳 : 鷗外の勧めで、皮膚科教室に移り、癩研究を志す。

大正政変・・・1913 = 28歳 : 学会で発表し、症例多数を報告。\_医学博士となる。

**第一次大戦始**1914 = 29歳 : 論文「白髪染料について」。\_「天草四郎」。「和泉屋染物店」「南蛮寺門前」が上演される。

民本主義・・・1916 = 31歳 : 南満医学堂教授に就任して渡満、

\_{アララギ}に「満州通信」を連載し、大陸各地を旅行して紀行文を書いたりするうち、浪漫的なるものから

の脱出を計る転機となり、

ハ 財力条約・1919 = 34歳 : 結婚後も、妻と北京・京城など美術担保旅行。詩集「食後の唄」

大暴落・・・1920 = 35歳 : 辞職し、朝鮮・中国を旅行後、

原敬首相暗殺1921 = 36歳 : 北米経由で渡欧し、パリの病院で研究しながら、

ヨーロッパ諸国を旅行し、スペイン・ポルトガルでは、キリシタン研究資料も発見。

関東大震災・1923 = 38歳 : リオン大学植物学研究室で、真菌分類の研究を始め、同僚と分類法を完成。

護憲三派圧勝1924 = 39歳 : 帰国。愛知県立医学専門学校教授となる。

**円本時代始**・1926 = 41歳 : 東北大学医学部教授となり、皮膚病梅毒学講座を担当。小説集「厭後集」、紀行「支那南北記」。

海軍軍縮条約1930 = 45歳 : \*それまでの詩をまとめて、「木下空太郎詩集」を刊行。

満州事変・・・1931 = 46歳 :

帝人疑獄事件1934 = 49歳 : 皮膚科学会総会で中毒疹の報告をするなどして、\_次第に癩病の世界的権威とされるようになる。

二二六事件・1936 = 51歳 : 評論集「芸林闊歩」。

**日中戦争始**・1937 = 52歳 : \_東京帝国大学医学部教授となり、皮膚科学講座を担当し、伝染病研究所研究員を兼務。思想弾圧を受けた学

生らの精神的拠り所として"鷗外の会"をつくって指導。

健保+総動員 1938 = 53歳 : 眼上顎部青色母斑を独立疾患として発表。

第二次大戦始1939 = 54歳 :

**日米開戦**・・・1941 = 56歳 : \_日仏交換教授としてフランス領インドシナに出張し、フランス政府よりレジオン=ドヌール勲章受章。

創価学会検挙1943 = 58歳 : \_最後の詩作し、

**敗戦**・・・1945 = 60歳 : \*現代語狂言「わらい唄」を発表後、東大在職のまま、胃癌で、没した。